

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2771400914		
法人名	医療法人 神明会		
事業所名	グループホーム ラ・アケソニア		
所在地	箕面市白島1丁目19-3		
自己評価作成日	令和2年11月10日	評価結果市町村受理日	令和2年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和2年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナの渦中、家族にも会えず精神的肉体的に低下がみられないよう、ホームの広々とした庭を、存分に活用し、外気浴や野菜作り、そしてその育てた野菜により、みんなで昼食を作ったりしている。また年中行事を欠かすことなく行い、もちろん外出企画はないものの、堪能していただけるよう工夫し、毎日を楽しく笑いのある施設として運営している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は大阪北摂の緑豊かな箕面山脈の山波を前に、周りは田や畑が広がる穏やかな暮らしのできる複合施設の一部にある。法人は職員の介護技術、知識の向上を目指して、内外研修の参加を奨励し、資格取得支援制度を設けている。これにより職員の安定的定着が図られて、利用者、家族との信頼関係の醸成にも繋がっている。また「医療」「介護」などの充実したサービスを継続的に提供できるよう、様々な事業所や職種のスタッフによる「症例発表会」がある。「看取り士」を取得している管理者も、みんなの前で終末ケアの在り方、大切さを発表し施設全員に広めている。運営主体が病院で近隣にあることから医療と介護の連携も密でリハビリテーション側から何かあれば随時指導に来てくれる。職員間も明るく、前向きで最善を尽くす努力をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	愛・奉仕・共感をもとにグループホームにて「安心・安住・安全」という理念を掲げて職員一同毎日の介護に携わっている。	グループホームの理念は「安心・安住・安全」として「家族様の声にも耳を傾け、利用者様と共に、毎日を心穏やかに、過ごしてもらえるよう努力する」と、職員間で話し合い作られた。理念は事務所に掲示して、毎月の定例会議で振り返り、サービス目標として実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	令和2年2月までは地域の行事にも参加させてもらったり、運営会議には必ず地域の方の参加があった。	自治会に入会して、地域のお祭りや小学校の運動会、音楽会、認知症カフェに出かけて楽しんでしたが、今年になってコロナ感染拡大となり、広い施設内で日光浴や季節のお野菜の手入れに励んでいる。職員は利用者のストレス軽減を考えて、三味線や踊り、マジック、フラダンスなどして奮闘している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを開催し、地域の方の認知症になるという不安を、軽減していただくよう伝える努力をした。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回市の職員をはじめ、民生委員地域包括、自治会の方また、家族様に出席いただき話し合い、これからの運営に生かしている。	昨年度は2か月に1回の会議を家族・自治会長・民生委員、地域包括支援センターの職員、管理者、職員の参加で開催している。事業所の運営や行事報告だけでなく双方向の話し合いを行い、その後のホームの運営に活かしている。今年度はコロナ感染拡大で、4月からは書面開催として、文書、写真を全関係者に送付している	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	箕面市のGH連絡会がコロナで自粛になるまでは、3か月に1度開催され、市の職員や他のグループホームの方と、運営について意見交換をした。	グループホーム連絡会議は3か月ごとに開催され参加している。市広域福祉課の担当者や地域包括支援センター職員とは、運営や事故報告、書類申請、情報収集など、必要に応じて指導を受けて運営に反映させている。社会福祉協議会とは地域との福祉交流会で情報収集している、コロナ禍で最近では電話やメールで協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体で勉強会を開き、身体拘束について勉強し、絶対しないということで介護にあたっている。	マニュアルを作り併設の事業所全体で定期的研修を実施して、身体拘束は「絶対しないという介護」を周知徹底を図っている。身体的拘束等の適正化のための指針も作り、3ヵ月1回の対策を検討する委員会を開催している。その結果について他の職員にも身体拘束の適正化のための研修の実施を徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については勉強会を始め、職員同士が注意をし合い、そのような行為が無いよう呼びかけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前から活用されておられる方も居られるため、自立支援に配慮し思いや考えを日ごろから、傾聴しそれに沿えるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書と共に説明を行い十分理解をして頂いている。質問にはご理解いただくまで話をさせてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	居室担当を決め、日頃のご様子を伝えたり、ご家族の思いを聞かせていただくよう電話やメールにて連絡を取っている。またコロナにて外出や面会が思うようにできなくなってからは、ホームでの様子を写真に収めコメントをつけてお知らせしている。	家族は訪問時に昔の趣味や得意分野を話してくれるなど気軽に話し合える関係で、利用者の必要なものを持参するなど協力的である。居室担当者が日頃の生活様子を詳しく伝えている。コロナ禍になってからはホーム内での生活を写真に撮り、近況報告を書いて送っている。近況報告については家族の評判が良い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度の定例会やつど、話をする事で、運営の改善を図っている。(現在は書面での会議となっているがその都度話し合いはしている)	毎月一度の定例会議を開催し、職員の意見や要望、提案を聞く機会を設けている。管理者と職員間は温かい信頼関係がある。コロナ禍になってからの研修は動画をするようにして、研修が始まる前に職員の意見、提案など聞いて、動画を作り勉強をしている。府・市からくる研修、資格取得についても奨励し働きやすい職場環境に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価をはじめストレスチェックやDrとの問診も行い、体調管理をしている。またシフト上の配慮は欠かさない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	大阪府をはじめ箕面市等の研修や勉強会は、回覧し受講希望者には受講を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3か月に1回のGH連絡会や、同法人のGHに内部監査等行いお互いの悩みや運営方針について話し合っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が不安に思うことや喜ぶことを見逃さず、本人の個性を尊重したサービスを提供。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の思いを話し易い関係づくりに努め、大切な方をお預け下さっている事への感謝で接する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の優先したいことや必要としている支援を見極め精神面・体力面共に維持できるよう支援する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を生かし心身ともに自立した生活をして頂く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	細目に連絡を取り、家族の思い本人の思いに寄り添うように支援する。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の生活パターンを少しでも維持できるよう、お友達や、お孫様等にも連絡を取り、面会できるようにしている。またコロナの渦中でも写真やお手紙により、こちらのご様子をお知らせすることで、関係を途切れないようにしている。	以前は家族の面会以外に友人、知人、お孫さん、親戚の訪問があり、大切にしてきた馴染みの関係が途切れないようにホームから電話などをしてきた。最近ではコロナ感染症拡大防止につき家族の訪問も制限している中、職員の協力で手紙や電話、タブレットでリモートをしたり、写真などを送ることによって関係が途切れないように工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの席も気の合った人を考え同席にすることで、発語を促し、孤立を防ぐよう支援する。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在契約が終了されたのは死亡されての退去となる為フォローには入っていない。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と家族の意向や思いに寄り添い、できることを模索することで、本人の思いに少しでも近づけるよう支援する。	職員はフェイスシートで利用者個々の趣味や得意分野、これまでの活動歴等を把握し共有している。利用者の要望(例えば新聞広告を見て高級商品を望んだり、自宅へ帰りたい、お寿司を食べたい等)の意思表示を表す時は一旦、傾聴に徹して家族に相談し、利用者に関わり添っている。困難な場合は言葉や表情などからそれとなく確認するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入浴時やお一人の時などゆっくり1対1にて話を聞き、その人らしい生活を送っていただくよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	レクリエーションや機能訓練により楽しく毎日を過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝お一人お一人顔を拝見しながら、挨拶をし、変わりがないか確認をする。また毎日の様子をカルテに落とし、職員間で情報を共有している。それを元にケアプランを立て安全な支援を心掛けている。	本人、家族の意見、要望を中心に各関係者等から報告を聞き、介護記録・介護計画、申し送りノート等を参考に定例会議で支援内容を検討し長期6ヶ月、短期3ヶ月毎に、現状に即した介護計画を作成して毎月モニタリングを実施している。本人の心身の状態変化に応じて、その都度見直して本人にとって必要なサービスが出来るように新しい介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をカルテに落とし、少しの変化も職員間で共有している。そのうえで介護計画の作成に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご高齢であることを認識し特変になられた時の対応を日ごろから職員間で話し合っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市役所等の優遇されている特許すべき情報を家族に伝え、利用できる様支援する。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム自体にも主治医が派遣されるが、いままでの馴染んだかかりつけ医を希望されることがあれば、そのように支援している。	入居時に利用者や家族の希望でかかりつけ医を決めており、ほとんどの人は協力医にして、内科は月2回・歯科は毎週訪問診療を受けている。状況の変化に対して職員は電話連絡し、医師が家族に説明している。その他の受診には職員が付き添い、以前のかかりつけ医には家族が付き添っている。週3～4回看護師の健康管理が行われ適切な医療支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に4日間業務に携わっている看護師を置き、利用者様の健康管理、職員の疑問等を看護師に相談できる体制をとっており、主治医との連携が取れるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院に関しては看護師が窓口となり病院との関係づくりを行っており、退院に際しては受け入れ態勢を病院からの情報や退院後の病院との関りを話し合いGHへの帰所を判断している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期において家族様との十分な話し合いをもち、主治医からGHでできる看取りについて説明をしてもらい、家族様の判断の元チーム一丸となって取り組んでいる。また、看取りとはの勉強会を、ご家族様にも説明する。	契約時には終末期に際し事業所の出来る事を説明し、同意書を交わしている。状態の変化があれば主治医より家族に説明して対応を話し合い同意書を得てる。関係者と連携の基、看取りの支援をしている。法人全体で看取りの研修に取り組み、管理者は看取り士の資格を持ち腕の中で最期を迎えられる。利用者家族に寄り添った看取り支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故については勉強会で講習を受けたり夜間でも、老健NSが駆けつける協力体制がある。また救急時対応について表示し直ぐに対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回災害について消防訓練を消防署と連携しながら行い職員全員が意識付け備えている。	年2回建物全体で災害避難訓練を実施し1回は消防署職員が立ち会って意見を貰っている。非常物品として水・レトルト食品・懐中電灯・カセットコンロの用意がある。職員は近隣に在住しており、訓練ですぐに駆けつける災害避難体制を意識している。	事業所内で日常的に避難のシュミレーションをされることや、災害時の利用者の安全を確保するために、近くの職員の役割や連携を確認され、安全に避難できる体制を整えられることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の意思を尊重し、プライドを傷つけず尊重し、今まで過ごされてきた心の環境を大きく変えることの無いよう心掛けや、支援を行うよう心掛けている。	定期的に併設の事業所全体の勉強会が開催され、知識を得ている。利用者の尊厳を傷つけないよう排泄時の声掛けや入浴時の対応に気を付け、不適切な場合はお互いに注意して支援している。入室時は声掛けをして了解を得ている。個人情報の書類は施錠できるロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	不安や心配事が無いよう、本氏の表情や発言などからくみ取り意向に沿うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本氏の状態を把握し、何を優先するべきかを考えて本氏第一で行動している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時は自分でできる方は、ご自分で選んでいただき、少し介助が必要な方には、声掛けを行い一緒に選んでいただいています。朝起きた時など化粧をされる方や整容などの支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好き嫌いのある方には、し好に合った物を本氏や家族に聞いてそろえたり、持って来てもらって提供している。また自分たちで栽培し収穫したものなど、調理方法を利用者と一緒に相談の上調理したりしている。	法人の厨房で毎日の3食が調理され、事業所でご飯を炊き、利用者と一緒に盛り付けなどを行っている。菜園の食材を利用したり、月に4~6回利用者の好みを聞いてラーメン・巻きずしを事業所で準備して利用者と一緒に調理して楽しんでいる。コロナ禍で外食もできなくなったので、時にはテイクアウトを利用する時もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理表に、一人ひとりの水分量や食事量を記載してできるだけ摂取して頂き水分量は目安を1200とし、声掛けや工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日食事後には誘導声掛けを行い、口腔内の清潔を保つようにしている。また週1回は歯科医師の受診を受けることができる体制にはなっているが、実際半数の方は医師・衛生士の受診を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のない方はすべて昼間はリハビリパンツで定時誘導及び、尿意のある方はその都度支援している。また、リハビリパンツでかぶれがある方は、排泄パターンを読み、布パンツにて対応している。	ほとんどの利用者はリハビリパンツにパット利用していて、パターン表を把握して声掛けをしてトイレでの排泄誘導をしている。体調に合わせて漢方薬を服用している利用者もいるが、見守りながら仕草を見てトイレへ誘導して排泄の支援をしている。夜間のオムツ利用者には安眠を妨げないよう定時交換をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師により排便コントロールされている。また家族の希望で漢方処方など、本氏に合わせたケアを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にはバイタルチェックを必ず行い、体調により入浴してもらう。また、気分的に拒否な場合は最後に再度声掛けを行い、それでも拒否の場合は後日というように、心身ともに無理の無いよう支援している。	週に2回お昼から入浴している。拒否する人には時間や職員を代えたりシャワーにしたり無理強いしないで柔軟に対応している。お湯は毎回入れ変えている。入浴剤やしょうぶ湯・ゆず湯など季節を感じてもらい楽しく入浴できる支援をしている。利用者の皮膚に合わせ保湿クリームを塗っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくり休んでいただけるよう、室温や加湿等考え、就寝援助の支援も必要な援助を妥当適切に行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が管理し、ワーカー一人一人が状態を把握し報告により、Dr指示の元支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々役割を持ち自分の存在を感じ自分のやりたいことや、好きなことを見つけ、日常生活に喜びと活気をもってもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	令和2年2月までは色々な企画にて、家族にも参加協力をお願いし、楽しんできたが、3月以降はコロナの関係上外出ができないため、それに代わる行事を企画し支援している。	毎月外食や万博公園・伊丹のバラ園・水月公園に家族も交え外出を楽しむこともあったが、コロナ禍で中止をしている。広い敷地を散歩して日光浴をしたり菜園で野菜の収穫をしている。職員のアイデアで園内で紅葉狩り風を企画したり、模擬店を出したり、焼き芋等の行事を楽しむなど、五感の刺激を得るように工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができない方が多いことと、物とられ妄想に発展しかねない方のために、家族に説明し、理解していただきこちらでお小遣いとしてお預かりさせていただき、個々に欲しいものがあるときは支援させてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本氏が希望されれば随時対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のリビングでは日差しのきついときは、ロールカーテンにて調節し、広い庭は、いつでも眺めることができるよう配慮している。リビングには皆さんも参加しながらの、手作りカレンダーを貼り、季節感を感じてもらっている。	リビングは掃き出し窓で明るく、ロールカーテンで日差しに配慮しながら庭に出られ開放感がある。クリスマスツリーを飾り壁にはカレンダーや行事の写真を掲示して季節を感じる。テレビ・カラオケが用意されていて2人掛け3人掛けのソファが用意してあり会話を楽しんだり寛げる空間がある。加湿器や24時間扇風機を回し換気に気を付けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	三人掛け、一人掛けのソファがあり、好きな時にくつろげるようになっている。また一人になりたいときは、居室にて自由な時間を過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用されていたものや、なじみのものを居室に置き、自分なりの空間を作るよう支援している。	居室入り口にお花のプレートを貼り分かりやすくしている。ベッド・寝具・クローゼット・鏡付き洗面台・トイレ・エアコンが用意されている。利用者は時計・家族の写真や絵・趣味で自分で彫った木彫りの額を飾っている。仏壇を置いている人や加湿器や空気清浄器等を持ち込んでいる利用者もいる。その人らしく工夫した部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは各自自分の居室にある為、居室確認にはなっていると思う。同性介助がいい方にはそのように対応し、安全に生活していただけるよう工夫している。		